

弦楽合奏団

エテルニータ

第12回コンサートーバロックトランペットを迎えてー

2015. 7. 5 [日]

14:00 開演 (13:30 開場)

栃木県総合文化センター サブホール



PROGRAM

山田栄二:花の五百羅漢 弦楽合奏のための

C. P. E. バッハ:オーボエ協奏曲 変ホ長調 Wq.165

C. P. E. Bach: Oboe Concerto E-flat major Wq.165

(独奏/山本楓)

*** 休憩 ***

パーセル:「アーサー王」組曲

H. Purcell: Orchestral Suite from "King Arthur"

J. S. バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 BWV.1068

J. S. Bach: Orchestral Suite in D-major BWV.1068



指揮 / 諸岡 範澄

国立音楽大学器楽科卒業。1993年ブルージュ国際古楽コンクールアンサンブル部門第一位受賞(Trio van Beethoven)。これまで数多くの内外の演奏家との演奏会、CDレコーディングに参加。宗教曲、世俗曲を問わず声楽曲の通奏低音奏者としても豊かな経験を持つ。またモダン・チェロ奏者としてもソロ、室内楽等の分野で活躍する他、作曲も手掛ける。1999年「第13回古楽コンクール・山梨」審査員を務める。

2000年韓国国立ソウル芸術大学におけるバロック音楽セミナー講師として、また漢陽大学学生による「コレギウム・ムジクム・漢陽」の指導者として招かれ度々訪韓している。2007~08年には西東京市主催企画「ベートーヴェンの学校」(校長・西原 稔)音楽監督を務める。バロック・古典派にとどまらず、ロマン派から近・現代に至る幅広い指揮レパートリーを持ち、またプロ・アマチュアを問わず奏者の自主性を引き出す指導力にも定評がある。「下野楽遊奏楽塾」「ひたちなか楽友会」講師を歴任。現在「コンヴェルススム・ムジクム」「M.O.G.」メンバー。「東京五美術大学管弦楽団」「オーケストラ・Mzima」指揮者。「やまなしバッハアカデミー」講師。「オーケストラ・シンポジオン」音楽監督。



オーボエ独奏 / 山本 楓

1992年栃木県生まれ。13歳よりオーボエを始める。栃木県立宇都宮女子高校を卒業。今春、東京藝術大学音楽学部を卒業し、同大学大学院音楽研究科に進学。

2010年第7回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト高校生木管楽器部門グランプリ受賞。2013年第18回コンセル・マロニエ21木管部門第2位。大学在学中、選抜された学生による室内楽定期演奏会、モーニングコンサート等に出演。卒業時に同声会賞受賞。平成26年度公益財団法人青山財団奨学生。

これまでにオーボエを斎藤享久、田淵哲也、河野剛、青山聖樹、小畑善昭の各氏に、バロックオーボエを三宮正満氏に師事。室内楽を小池郁江、岡本正之、十亀正司の各氏に師事。また、ディートヘルム・ヨナス、ハンスイェルク・シェンベルガー、クリスティアン・ヴェッツェル、オリヴィエ・ドワーズ、ルカ・ヴィニャーリ各氏のマスタークラスを受講。



エテルニータ顧問・作曲・編曲・解説 / 山田 栄二

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。

作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファール昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。

1999年県文化奨励賞受賞。



山田栄二:花の五百羅漢

五百羅漢(ごひゃくらかん)とは、釈迦の直弟子の中でも特に位の高かった五百人の僧の事を言います。埼玉県川越市、東京都目黒区、大分県中津市の羅漢像はよく知られていますが、作者が取材したのは兵庫県加西市北条町の石仏たちです。他の羅漢さんたちのリアルな表情とは違って、稚拙さの中にも素朴で温かみのある風情がとても魅力的だったからです。

単純なリズムが微妙に変化していく**前半部**、悲しみに満ちた**中間部**、そして風に散る花びらが羅漢さんの頭上に降り注いでいく**終結部**といった三つの部分から出来ており、日本的な香りのする親しみやすい作品になっています。

28年ほど前に「秋の音楽展」という作品発表会で、U.P.A.(宇都宮・パーカッション・アソシエーション)のメンバーによってマリンバ五重奏曲として初演され、その後何度も演奏されてきましたが、今回の演奏会のために新たに手を加えた弦楽合奏曲として甦り、再び上演される事になりました。この機会を与えて下さったエテルニータの皆様へ深く感謝しております。

C. P. E. バッハ:オーボエ協奏曲 変ホ長調 Wq.165

J. S. バッハの次男であるC. P. E. バッハは70曲以上の協奏曲を残していますが、ほとんどはクラヴィア(鍵盤楽器)のためのもので、オーボエ協奏曲は他に変口長調(Wq.164)があるのみです。2曲ともクラヴィア協奏曲版がありますが(Wq.39, 40)、どちらが先に作られたのかは判明していません。クラヴィア協奏曲の方に改訂された跡が見られるので、おそらくオーボエ協奏曲の方が原曲かと思われます。フリードリヒ大王に仕えていた頃、すなわちベルリン時代の末期の作品で、彼はその後ハンブルクに居を移して活躍することになります。

父のJ. S. バッハとは異なった様式、すなわちハイドンやモーツァルトを先駆けするような新しい時代の作風で書かれており、歴史の移り変わりを感じさせる所が興味深いです。

第1楽章 アレグロ

最初のトゥッテイの主題が、3回のオーボエ・ソロを挟んで演奏されます。

第2楽章 アダージョ・マ・ノン・トロツポ

深い悲哀感を表現した楽章で、多感様式と言われた作曲者の特徴が感じられます。

第3楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

明るいメヌエット調の終曲。1楽章と同じく4回のトゥッテイと3回のソロから出来ています。

パーセル:「アーサー王」組曲

バロック時代のイギリスの作曲家ヘンリー・パーセルの劇音楽「アーサー王」から、オーケストラで演奏される曲(一部声楽曲のアレンジされたものを含む)を選び、組曲としたものです。アーサー王というと、聖杯伝説や円卓の騎士、騎士と王妃のロマンスなどが良く知られていますが、パーセルの作品にはそういったものは一切登場しません。アーサー王がイギリス王国を統一するために他の民族(サクソン人)と戦い勝利するといった内容になっており、この時代のオペラや音楽劇に良く登場する魔法使いも大活躍します。

スペクタクルな場面が多い劇のため、トランペットやティンパニを用いた華やかな雰囲気をもつナンバーが何曲か入っていて(「序曲」や「トランペット・チューン」など)、作品の内容にふさわしい堂々とした作品となっています。また「エア」や「シンフォニー」といった可憐な小品も味わい深いので、お聴き逃しのないように。

I. 序曲 II. エア III. 序曲 IV. シンフォニー V. エア VI. ホーンパイプ VII. シンフォニー
VIII. トランペット・チューン IX. パッサカリア X. トランペット・チューン XI. 聖ジョージ XII. コーラス

J. S. バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 BWV.1068

バッハの残した4つの「管弦楽組曲」のうち、第2番と共に良く知られた組曲ですが、その理由は2曲目の「エア」が「G線上のアリア」として単独で演奏されることによると思われます。作曲された時期や動機はよく解かっていませんが、おそらくライブツィヒのコレギウム・ムジクムという大学生を集めて結成された演奏団体のために書かれたのではないかと推測されています。編成はかなり大きめで、トランペット3、ティンパニ、オーボエ2、弦楽合奏の他に、通奏低音としてチェンバロとファゴットが加わります。

なお、バッハはこの曲集を「Suite(組曲)」ではなく、「Overture(序曲)」と名付けていますが、その理由は1曲目の序曲がその後の他の舞曲よりも規模が大きくしっかりと作曲されている事に因ります。

第1曲の序曲は、堂々たるグラーヴェとリズムミックなフーガから成るフランス式序曲。

第2曲のエアは、ゆったりと静かに歩むバスの上に、息の長い高雅な旋律がヴァイオリンで歌われていきます。弦楽器のみの演奏で、管楽器や打楽器はお休み。

第3曲のガヴォットと**第4曲のプレー**は2拍子系の躍動感溢れるフランスの舞曲。再び管楽器が加わり華やかになります。

第5曲のジークは8分の6拍子の快速なイギリス舞曲で、バロック時代の組曲の終曲として数多く登場します。

Eternita

弦楽合奏団

指揮 諸岡範澄
 バロックトランペット ★斎藤秀範 ★金城和美 ★狩野藍美
 バロックティンパニ ★松下真也
 オーボエ ★田淵哲也 ★山本楓
 ファゴット ★吉澤真一
 ヴァイオリン 青柳敬子 赤羽根洋子 ◎奥村琳
 川俣洋子 小松崎倫子 *高橋真二
 土屋恵子 福富恵子 迎佐也子 山田美津子
 ヴィオラ 川沼文夫 ◎中村 淑江 *諸岡 涼子
 チェロ 荒川育子 ◎君島茂 柴野亜紀子
 コントラバス 増山一成
 チェンバロ 沼尾美和子

ステージマネージャー 小林俊夫(日本フィル)

★ゲスト奏者 ◎団友 *エキストラ

弦楽合奏団 エテルニータ

「エテルニータ」とはイタリア語で「永遠」を意味します。

この弦楽合奏団は 2000 年 03 月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートで再会し、宇都宮短期大学附属高校音楽科(あるいは宇都宮短期大学音楽科)で学んだ有志で結成されました。

そして未永く活動していこうという願いを込めて「エテルニータ」と名付けたのです。

音楽に限らず、何かを学んでいくことに終わりはありません。私たちは世界中の偉大な作曲家達が残してくれた、教えきれないほどの作品に触れ、それを勉強することで少しずつ前進していこうという意思を持った音楽家の集まりです。



ゲスト奏者プロフィール

バロックトランペット 斎藤秀範

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ソロや室内楽、オーケストラ等、幅広く活動している。バロック(ナチュラル)・トランペット奏者として、パツハ・コレギウム・ジャパン、クラシカル・プレイヤーズ東京、ヘンデル・フェスティバル・ジャパン、パーゼル・プロジェクト、オーケストラ・シンポジオン、カメラータ・アンティカ・ソウル(韓国)など、国内外において様々な団体と演奏及び録音を数多く行う。

これまでに、織田準一、関山幸弘、P.ティボーの各氏に師事。

バロックトランペット 狩野藍美

尚美学園ティプロマ首席修了。

日本トランペット協会設立20周年記念コンクール 第3位。

これまでに池田英三子、佛坂咲生、加古勉、島田俊雄の各氏に師事。

バロックトランペットを島田俊雄氏に師事。

ソロ、アンサンブル、吹奏楽、オーケストラでCMや録音、TV収録、海外公演等に参加。

オーボエ 田淵哲也

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科オーボエ専攻卒業。オーボエを斎藤享久、鈴木尚雄、河野剛、小畑善昭、G.シュマルフスの各氏に、室内楽を山本正治、四戸世紀、岡本正之の各氏に、指揮を城谷正博に師事。

演奏活動の傍ら後進の指導にも力を注いでいる。洗足学園音楽大学、宇都宮短期大学及び同附属高校、長野県立小諸高校、石川県小松市立高校、新潟中央高校音楽科講師。吹奏楽の分野でも宇都宮短期大学附属高校吹奏楽部の指揮者を務める他、県内はもとより全国バンドである埼玉県埼玉米高校、伊奈学園総合高校、千葉県柏市立柏高校のオーボエ講師を務める。亜細亜大学吹奏楽団オーボエトレーナー。

アンサンブル「イヴローニュ」、MCFオーケストラとちぎオーボエ奏者。

バロックトランペット 金城和美

沖縄県立芸術大学音楽学部器楽専攻管打楽コースを卒業。東京藝術大学音楽学部別科修了。トランペットを津堅直弘、祖堅方正、杉木峯夫、大隅雅人の各氏に師事。2001年第7回おきでんシュガーホール新人オーディションで入選賞を授賞。同演奏会に出演。現在、フリーのトランペット奏者として、都内外のオーケストラで演奏活動をする。演奏活動の他にも後進の指導も行う。

バロックティンパニ 松下真也

東京音楽大学卒業。同研究生修了。現在フリーのティンパニ・打楽器奏者としてオーケストラ、室内楽を中心に活動している。水戸室内管弦楽団、サイトウキネンオーケストラ等参加。パーカッション・ミュージアムメンバー。近年はバロックティンパニの演奏もおこない古楽器オーケストラの演奏会にも出演している。

ファゴット 吉澤真一

宇都宮短期大学付属高校卒。東京藝術大学卒。NHK洋楽オーディション合格。NHKFM「午後のリサイタル」「夕べのリサイタル」出演。日本音楽コンクール入選。ファゴットを山畑馨、三田平八郎、アルフレッド・ヘニゲの各氏に師事。室内楽を吉田雅夫、森正、細野孝興の各氏に師事。東京フィルハーモニー交響楽団 団員。宇都宮短期大学非常勤講師。